

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

## SUMMARY SHEET PREPARING PROCESSOR AND ITS METHOD

Patent Number: JP11250150  
Publication date: 1999-09-17  
Inventor(s): HARASAKI TAKAYUKI  
Applicant(s): SANYO ELECTRIC CO LTD  
Requested Patent: ☐ JP11250150  
Application Number: JP19980052348 19980304  
Priority Number(s):  
IPC Classification: G06F19/00  
EC Classification:  
Equivalents:

### Abstract

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To make it possible to repeatedly utilize a summary sheet for printing and display by storing it by a format allowed to be easily dealt with by a printing program or a display program and to allow an external application program or an external computer to easily execute secondary working for the sheet by utilizing the data of the sheet.

**SOLUTION:** The processor is provided with a summary sheet preparing means 21 for preparing a summary sheet collecting daily states or monthly states by specifying a date or a period and storing respective summary sheets as summary sheet files 14 by a format suitable for printing or display in each tabulation unit, output control means 23 to 25 for printing or displaying these files 14, and a table display/selection means 22 for displaying the names of the files 14 as a list so as to select each file 14. The means 22 sends a selected file 14 to the output control means 23 to 25, which execute the printing or display of the received file 14.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-250150

(43) 公開日 平成11年(1999) 9月17日

(51) Int.Cl.<sup>8</sup>

G 0 6 F 19/00

識別記号

F I

G 0 6 F 15/22

3 1 0 Z

審査請求 未請求 請求項の数8 OL (全5頁)

(21) 出願番号 特願平10-52348

(22) 出願日 平成10年(1998) 3月4日

(71) 出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72) 発明者 原崎 剛之

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三

洋電機株式会社内

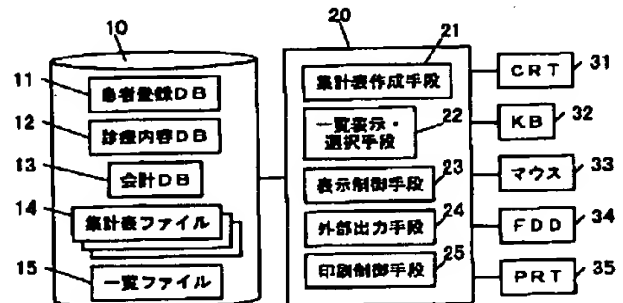
(74) 代理人 弁理士 安富 耕二 (外1名)

(54) 【発明の名称】 集計表作成処理装置及び集計表作成処理方法

(57) 【要約】

【課題】 集計業務では、集計処理の結果を内部に一時的に記憶しておいて印刷後に消去してしまうので、他のアプリケーションプログラムで利用することができなかった。

【解決手段】 期日又は期間を指定して日々の状況や月次の状況をまとめた集計表を作成し、該集計表を集計の単位に印刷又は表示に適した形式で集計表ファイルとして保存する集計表作成手段と、前記集計表ファイルを印刷又は表示する出力制御手段と、前記集計表ファイルの名称を一覧表示して選択可能とする一覧表示選択手段とを備え、該一覧表示選択手段は選択した集計表ファイルを前記出力制御手段に送り、それに応じて前記出力制御手段は受け取った集計表ファイルを印刷又は表示するように構成した。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 期日又は期間を指定して日々の状況や月次の状況をまとめた集計表を作成し、該集計表を集計の単位に印刷又は表示に適した形式で集計表ファイルとして保存する集計表作成手段と、前記集計表ファイルを印刷又は表示する出力制御手段と、前記集計表ファイルを一覧表示して選択可能とする一覧表示選択手段とを備え、該一覧表示選択手段は選択した集計表ファイルを前記出力制御手段に送り、それに応じて前記出力制御手段は受け取った集計表ファイルを印刷又は表示するようにし、前記集計表作成手段が作成した集計表ファイルのうち所望の集計表ファイルを印刷又は表示する集計表作成処理装置。

【請求項2】 前記集計表作成手段は、集計の対象日及び集計の条件のデータと共に、作成した集計表を前記集計表ファイルに保存するようにした請求項1記載の集計表作成処理装置。

【請求項3】 前記集計表作成手段は、少なくとも日計表と月計表を作成するものである請求項1又は2に記載の集計表作成処理装置。

【請求項4】 前記集計表作成処理装置は、医療機関に設置されて、前記日計表又は月計表の作成条件として、少なくとも保険別、診療科別、医師別、及び患者の年齢別、入院／外来別のそれぞれ又はその組み合わせの条件で集計を行うものである請求項1又は2又は3に記載の集計表作成処理装置。

【請求項5】 前記集計表作成手段は、作成した集計表をテキスト形式で集計表ファイルに保存するものである請求項1乃至4のいずれかに記載の集計表作成処理装置。

【請求項6】 前記集計表作成手段は、作成した集計表をHTML形式で集計表ファイルに保存するものである請求項1乃至4のいずれかに記載の集計表作成処理装置。

【請求項7】 前記出力制御手段はさらに、外部記憶媒体との入出力をおこなうものである請求項1乃至6のいずれかに記載の集計表作成処理装置。

【請求項8】 医療機関に設置されて、期日又は期間を指定して日々の状況や月次の状況をまとめた集計表を作成する装置において、

- a. 作成した集計表を集計の単位に印刷又は表示に適した形式で集計表ファイルとして保存するステップ、
- b. 前記集計表ファイルのヘッダ部分に集計表の名称、集計の期間、対象者を保存するステップ、
- c. 前記集計表ファイルを一覧表示するステップ、
- d. 一覧表示された集計表ファイルを選択するステップ、
- e. 選択した集計表ファイルを印刷又は表示するステップ、を有することを特徴とする集計表作成処理方法。

【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、日次や月次の売り上げ等の状況をまとめて日計表や月計表を出力する集計表作成処理装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】例えば、病院等の医療機関にあっては、診療中の患者についてその氏名や住所、患者番号等の固有データを登録しておき、診療の都度、カルテに基づいて診療内容を登録していく事務処理装置が利用されている。このような装置では、診療内容の入力に応じてその保険点数を算定し、患者負担金や保険請求額を計算して会計データとして保存するようにしている。そして、患者の来院状況や保険別の点数、収入、未収金の状況等を毎日に日報や日計表に出力したり、あるいは1ヶ月分をまとめて月報や月計表に出力して利用している。このように集計表を出力する作業を集計業務と呼んでいる。

【0003】集計業務では集計する対象の期間又は期日を指定するが、期間の初めと終わりを同じ日にすれば日計表になり、月初と月末を指定すれば月計表になる。また、期間を1週間に設定すれば日計の集合として週計表と呼べるものができる。そして、これら集計表は紙媒体に印刷されて出力される。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】印刷された集計表は通常、バインダに綴じて保管されることが多いが、汚損や紛失等が原因で、再度同じ集計表を出力する必要が生じることもある。しかし、集計業務では、集計処理の結果を内部に一時的に記憶しているので、それを印刷してしまうとそのデータは消去している。従って、上のような場合は、もう1度集計業務を起動して前回と同じ条件を設定し、集計表を出力させる必要がある。多くの場合、集計業務は、1日の診療が終了した後に実施するものなので、再度の実施は簡単ではなかった。さらに、患者数の多い医療機関では集計処理に数分を要するので、効率が悪かった。

【0005】また、集計業務でまとめたデータをさらに加工して、別の用途に利用したいとする要求もある。そのためには、集計結果を他のアプリケーションプログラムで利用できる形式で記述したり、他の媒体に保存することが必要になるが、従来は、上で述べたように、集計業務では、集計処理の結果を内部に一時的に記憶しておいて印刷後に消去してしまうので、他のアプリケーションプログラムで利用することができなかった。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、期日又は期間を指定して日々の状況や月次の状況をまとめた集計表を作成し、該集計表を集計の単位に印刷又は表示に適した形式で集計表ファイルとして保存する集計表作成手段と、前記集計表ファイルを印刷又は表示する出力制御手段と、前記集計表ファイルの名称を一覧表示して選択可

能とする一覧表示選択手段とを備え、該一覧表示選択手段は選択した集計表ファイルを前記出力制御手段に送り、それに応じて前記出力制御手段は、受け取った集計表ファイルを印刷又は表示するようにして上記課題を解決するものである。

【0007】

【実施例】図1は、実施例の集計表作成処理装置の構成を示すブロック図である。本装置は医療機関に設置されて、患者及び患者が受けた診療に関するデータを入力、保存し、その診療データから保険請求額や患者負担金などの会計データを計算するものである。また、これら患者に関するデータベースを基に、日々の患者来院状況や月次の収支等の日計表や月計表を作成することが出来るものである。そして、20は処理装置本体であり、ハードディスク装置等のファイル装置10と、CRT等の表示装置31と、キーボード32及びマウス装置33等の入力手段と、フロッピーディスクや光磁気ディスク等の可搬型の記憶媒体を読み書きする外部入出力装置34と、プリンタ35とを備えている。

【0008】ファイル装置10には、患者の氏名や住所、患者番号等の患者固有のデータを記憶する患者登録データベース11と、患者が受けた診療内容を患者別に記憶する診療内容データベース12と、患者負担金や保険請求額、未収金等の会計データを記憶する会計データベース13と、さらに、後述する作成手段によって作成した集計表を集計の単位に記憶する1つ又は複数の集計表ファイル14と、これら集計表ファイル14のヘッダ情報を集めた一覧ファイル15とを記憶している。

【0009】処理装置本体20の内部には、ファイル装置10に記憶された患者登録データベース11や診療内容データベース12及び会計データベース13からデータを読み出して、日計表や月計表等の集計表を作成する集計表作成手段21と、集計表ファイル14の名称等を一覧表示して、入力手段からの指示に応じて集計表ファイル14を選択する一覧表示・選択手段22と、その一覧表示・選択手段22が選択した集計表ファイル14を表示装置31に表示する表示制御手段23と、選択された集計表ファイル14を外部入出力装置34に出力する外部出力手段24と、集計表ファイル14をプリンタ35に送って印刷する印刷制御手段25とが設けてある。

【0010】次に本装置の動作を説明する。まず、集計表の作成業務について図2を参照して説明する。集計表の作成にあたっては、集計の条件をキーボード32等の入力手段から指示する。例えば、集計期間として平成10年2月11日から11日まで、即ち2月11日の日計表を、外来患者を対象に、保険別に集計する、と指定する。このような条件を受けて集計表作成手段21は、ファイル装置10にアクセスして患者登録データベース11からは外来患者の固有データを読み出し、診療内容データベース12からはその患者の診療データを読み出

し、そして、会計データベース13からは、その患者の診療費用や未収金の会計データを読み出して、内部のメモリ（図示せず）に表の形に組み立てる。そして、その集計表を、プリンタ35で印刷し易いようにテキスト形式でファイルに保存する。このファイルを集計表ファイルと呼び、集計毎に、即ち作成した集計表単位にファイルを作成する。その際、集計表作成手段21は、その集計表の名前、集計の期間、集計の対象者等の集計条件を、集計表ファイル14のヘッダ部分に保存するのである。

【0011】また、それと同時に、ヘッダ部分に保存した情報を一覧ファイル15にも追加して保存するようにしている。従って、一覧ファイル15には、現在ファイル装置10上にあるすべての集計表ファイル14のヘッダ情報が保存される。図では便宜的に別のファイル装置10に保存しているようにも見えるが、図1に示す実施例のように、同じファイル装置10上で作業してももちろんよい。

【0012】次に、図3を参照して、集計表ファイル14を一覧表示し、選択する動作を説明する。キーボード32等の入力手段を使って一覧表示を指示すると、それに応じて一覧表示・選択手段22は、まず、ファイル装置10上の一覧ファイル15をアクセスし、そこに保存されているヘッダ情報を読み出して、表示装置31の画面に表示する。一覧ファイル15は、集計表ファイル14それぞれに保存されている集計表の名前や集計条件を保存したものであるから、それを表示することによって、集計表選択の助けとすることが出来る。

【0013】図4に集計表一覧40の画面表示例を示す。1行に1件のヘッダ情報を表示しており、左端の番号に続けて帳票名即ち集計表の名前と、発行日、集計単位と、集計期間、そして外来又は入院の区別の情報がある。もちろん、これ以外の情報も集計表ファイル14のヘッダ部分からは読み出しているが、一覧性と、相互の識別性を勘案して必要なものを表示している。そして、実施例では、3件の帳票が選択可能であり、そのうち1番目の集計表がカーソル41で囲まれている。また、画面左下には、キーボード32のファンクションキーに対応して、集計表に対して実施出来る具体的な処理が表示されている。

【0014】そこで、キーボード32のカーソルキーでカーソル41を動かし、所望の集計表を選択・指定しておいて、処理を指示すればよい。このとき、処理に対応するファンクションキーを操作してもよいし、マウス装置33を使って画面に表示されているF1からF6の処理を直接画面上で指示してもよい。実施例では、F1を指示すると、一覧表示・選択手段22はそれに応じて、一覧表示している集計表をすべて選択して処理対象にする。F2を指示すると、一覧表示・選択手段22は選択されている集計表ファイル14を印刷制御手段25に送

るので、印刷制御手段25はその集計表をプリンタ35で印刷する。F3を指示すると、一覧表示・選択手段22は集計表ファイル14を外部の記憶媒体に出力するよう外部出力手段24に指示し、F4を指示すると逆に外部の記憶媒体から集計表を取り込むことを指示する。F5を指示すると、一覧表示・選択手段22は選択した集計表ファイル14を削除すると共に、一覧ファイル15からもその集計表ファイル14のヘッダ情報を削除する。そして、F6を指示すると、集計表ファイル14からデータを読み出して、その集計表の内容を画面に表示する。

【0015】従って、過去に作成してファイル装置10に保存しておいた集計表ファイル14について、再び印刷したり、別の装置で利用するためにフロッピーディスクや光磁気ディスクに書き込むことが出来る。あるいはフロッピーディスク等に退避しておいた集計表ファイル14を、ファイル装置10に取り込んだり出来るものである。例えば、F2を指示すれば、図3に模式的に示すように、一覧表示・選択手段22は該当する集計表ファイル14をファイル装置10から読み出し、それを印刷制御手段25に渡すので、印刷制御手段25は、プリンタ35を制御して選択された集計表を印刷する。また、F3を指示すると、一覧表示・選択手段22は該当する集計表ファイル14をファイル装置10から読み出し、それを外部出力手段24に渡すので、外部出力手段24は、外部入出力装置34を制御して選択された集計表ファイル14を外部の記憶媒体に保存するのである。逆に、F4を指示すると、一覧表示・選択手段22は外部出力手段24を介し、外部入出力装置34を制御して外部の記憶媒体に保存されている集計表ファイルを読み出して、ファイル装置10に保存する。

【0016】ところで、集計表作成手段21は、作成した集計表をテキスト形式ではなく、HTML形式(HyperText Markup Language [ハイパーテキストマークアップランゲージ])で集計表ファイル14に保存することもできるようになっている。そして、HTML形式で保存した集計表ファイル14をフロッピーディスクに書き出して、外の汎用装置等を持っていくことで、集計表をさらに2次加工する可能性を広げることが出来る。

【0017】また、外部入出力装置34を通信装置に置き換えて、LAN等の通信回線で結ばれた外の計算機に

集計表ファイル14を送信することもできる。その場合、外部出力手段24は、その通信装置を制御する通信制御装置として作用する。例えば、図4に示した集計表一覧の画面でF3に送信処理を割り当てておき、それが指示されたことに応じて、外部出力手段24は、選択されている集計表ファイル14を通信装置を介して相手方通信装置へ送信する。集計表を画面表示することを中心に考えるならば、HTML形式で記述した集計表ファイル14が適している。そうすれば相手方の画面にダイレクトに集計表を表示することが出来るようになる。

【0018】

【発明の効果】本発明によれば、作成した集計表を保存し、それを一覧表示して任意の集計表を選択できる。そして、一覧表には集計表の名前や集計の期間等の条件を表示するので、集計表の内容が理解できて、選択の際の助けとなり選択が容易である。また、集計表は印刷プログラムや表示プログラムが取り扱い易い形式で保存するので、繰り返して印刷や表示に利用するのに適している。また、外のアプリケーションプログラムや外の計算機で集計表のデータを利用して2次加工するのが容易になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例の構成を示すブロック図である。

【図2】実施例における集計表ファイルの作成の手順を示す模式図である。

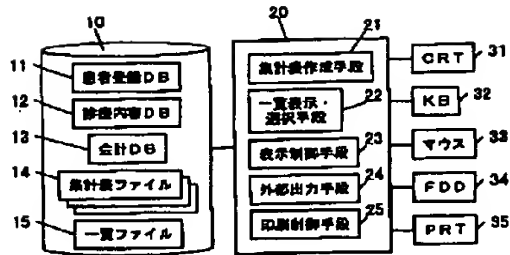
【図3】実施例における集計表ファイルの一覧表示と選択の動作を示す模式図である。

【図4】実施例における集計表一覧の画面表示例である。

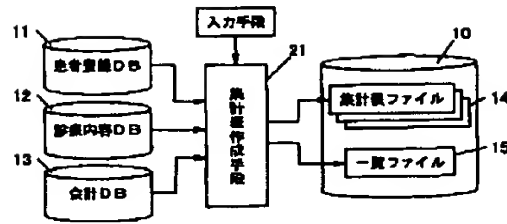
【符号の説明】

10	ファイル装置	11	患者登録データベース
12	診療内容データベース	13	会計データベース
14	集計表ファイル	15	一覧ファイル
20	処理装置本体		
21	集計表作成手段	22	一覧表示・選択手段
23	表示制御手段	24	外部出力手段
25	印刷制御手段		
31	表示装置	32	キーボード
		33	マウス装置
34	外部入出力装置	35	プリンタ

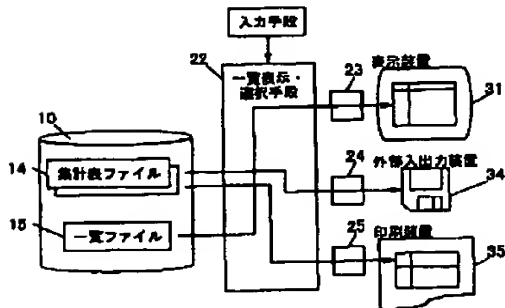
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

集計表一覧					
No.	帳票名	発行日	集計単位	集計期間	外注/入力
1	日計台帳	H10.02.11	指定なし	H10年02月01日~01日	外
2	日別診療点数一覧	H10.02.11	科別	H10年02月01日~28日	外
3	連続順日計帳	H10.02.10	指定なし	H10年02月01日~01日	指定なし

全選択 印刷 F3検索 F4入力 F5削除 F6詳細表示